【行動とその意味するもの～集める～】

「隣の席の方の唐揚げに手を出した」という行動を「そんなことをしてはいけません」だけで済ませているのだとしたら、その事業所の支援は最低のレベルにあります。せめて「もっと唐揚げが食べたかった」「唐揚げが大好きで、何回も唐揚げを食べたい」というニーズを持った人だということの理解はして欲しいと考えます。

では「ふりかけの使用済みの袋をいくつもごみ箱から拾って集め、ポケットの中に持っている」という行動から、「事業所の食事提供では出ていない新しいふりかけが欲しい」という気持ちを想像することは難しいことでしょうか？

「ゴミを拾って来てはいけません」と叱責することは簡単なことですが、それでは医学モデル的關係における支配であって、とても支援と言えるような代物ではありませんから、「なぜ、ふりかけの袋を集めるの？ゴミを拾ってくるのはいけないことだとわかっているのに」という視点を持つことは、ニーズに答える支援を組み立てていくために必須の要件になります。

そして、ふりかけの袋を集めているからふりかけが欲しいのではないか？というのは最も簡単に思いつく支援仮説ですから、そのくご飯にかけものつながりの発展形である「鮭フレークをかけたい」「納豆をのせたい」「シラスをかけたい」なんていう支援仮説を即座に想像できるレベルまで、すぐに駆け上がりたいたいものです。

さて、「給食のコップを集める」はいかがでしょう？一番簡単な支援仮説は「自分専用のコップを使いたい」です。その時は、この支援仮説でドンピシャ。購入計画ができたところで、コップ集めはピタリと無くなりました。

では、「テレビのリモコンを集める」はどうでしょうか？もちろん「テレビのリモコンを新しく買って欲しい」ではないですよ。それでは簡単過ぎます。この時は「テレビが映らないので何とかして欲しい」が本当の気持ちでした。テレビが、

特にBS放送だったのですが、きれいに映ったことでリモコン集めはぴたりと無くなりました。

「掛け布団を集める」という方もいました。よく見るとそれはいつも同じ人の物です。本人の誕生日が近いことをヒントにして「誕生日パーティーに呼びたいの？」と尋ねるとまんざらでもないようです。計画を進めると次の日にはもう布団集めはありませんでした。

「薬袋を集める」方もいました。ちょうどお父さまが入院中だったので、お見舞いの計画を立てました。それで薬袋集めは無くなりました。

「自分の枕元に集めたペットボトルを並べた」方がいました。お父さまが病気がちのためになかなか決まらなかった面会が支援職員の努力で決まったあと、ペットボトルは跡形もなく彼の枕元から消えました。

「トイレトペーパーを集めた」方は、自分の居室のトイレトペーパーの収納箇所がトイレトペーパーでちょうどいっぱいになれば、それ以上集めることはありませんでした。相当の量のトイレトペーパーが必要でしたが…。

「VHSテープを集めた」方も同じでした。自分専用のVHSテープの収納コンテナがいっぱいになったところでその収集衝動は止まりました。

空き缶だの空きカップだの小物のごみを集めて来て部屋いっぱいにしてしまう人には、入所前の自宅の様子がゴミだらけの状態だったこと、母も父も亡くなっていることから連想して、仏壇を設置してみたところ、そのゴミ集めは激減しました。

集めるという行動をとってみても、悪いことをしている、不必要なことをしていると視線だけでは、彼らの本当の気持ちには伝わりません。この集めるという行動を通じて何を伝えようとしているのかという視線とその行動から想像する彼らの心の内を、まず支援、実践してみるとという姿勢が彼らの豊かな人生を保証します。